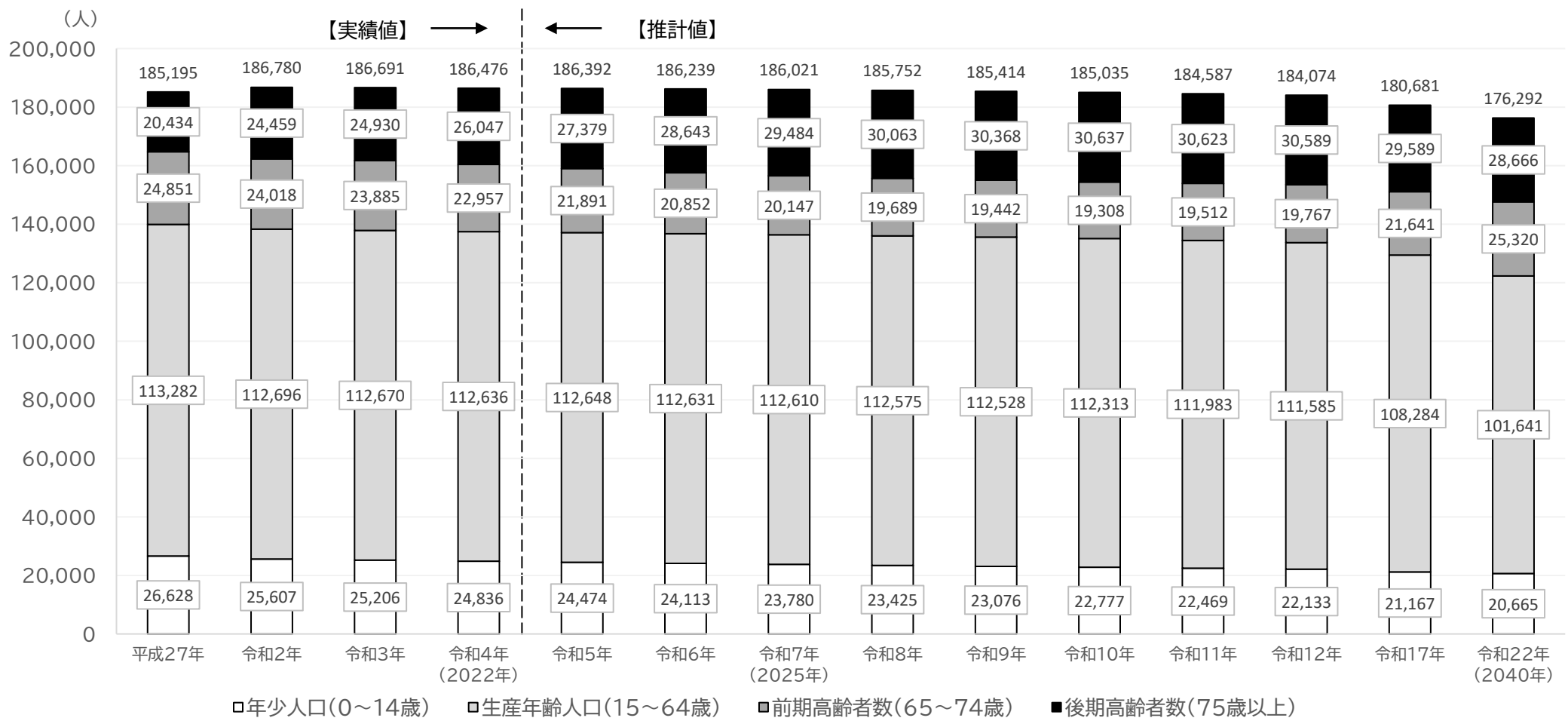


(1)人口の推移と推計

豊川市の総人口は、平成27年から令和4年まではほぼ横ばいで推移しています。令和12年までは総人口は横ばいの推移になると見込まれますが、令和17年には180,681人に、令和22年には176,292人まで減少する見込みとなっています。

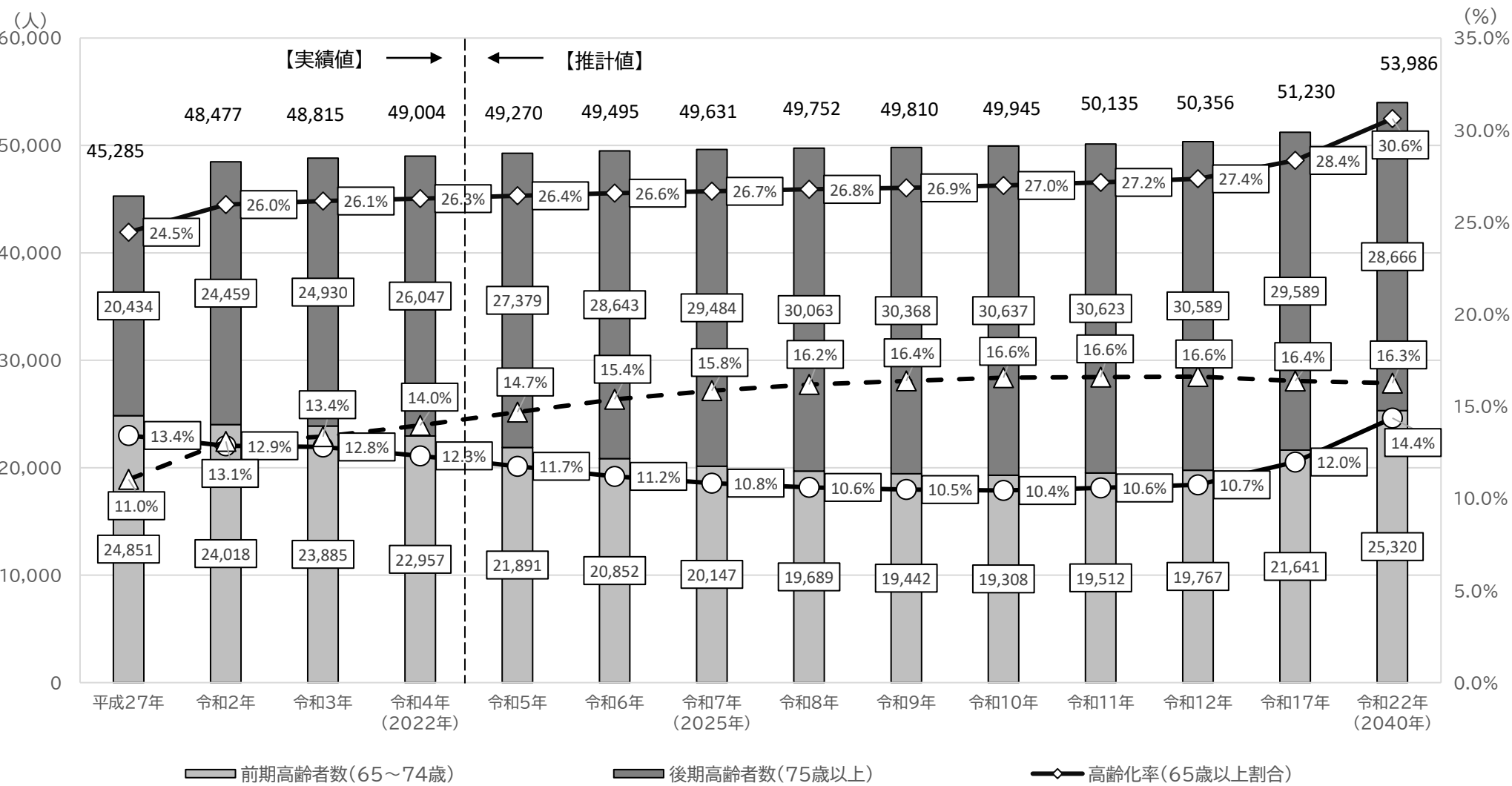
令和17年の推計値では、前期高齢者数が21,641人、後期高齢者数が29,589人に、令和22年では前期高齢者数が25,320人に、後期高齢者数が28,666人となる見込みです。



豊川市の現状と将来人口・高齢者数等の予測

(2)高齢人口および高齢化率の推移と推計

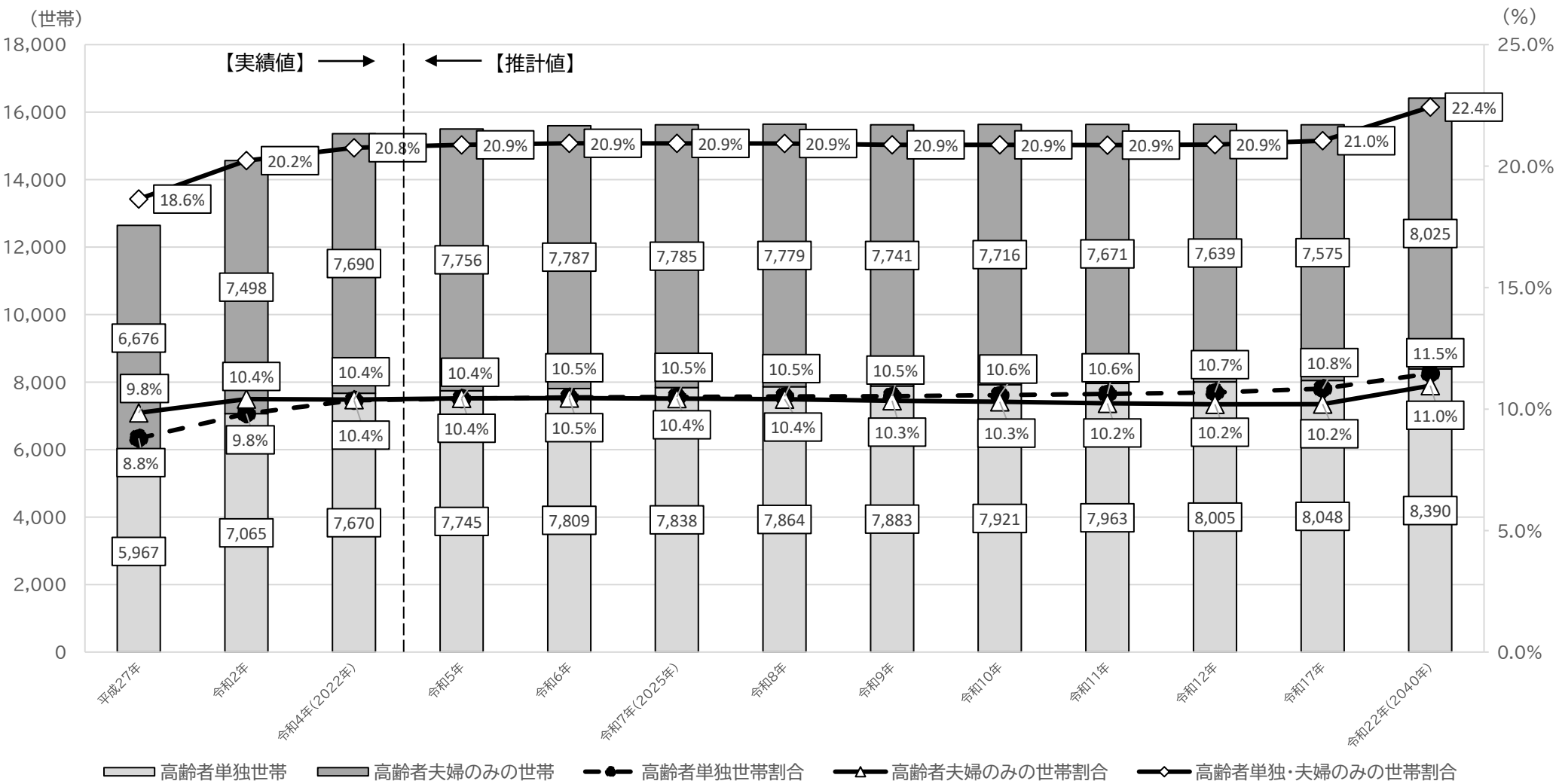
高齢化率は毎年上昇しており令和4年には26.3%となっています。令和5年以降の推計値でも高齢化率は上昇し続け、令和22年には30.6%になる見込みです。前期高齢化率は令和5年以降は低下する見込みとなっていますが、後期高齢化率は令和11年にかけて上昇した後横ばいで推移する見込みです。



豊川市の現状と将来人口・高齢者数等の予測

(3) 高齢者世帯の推移と推計

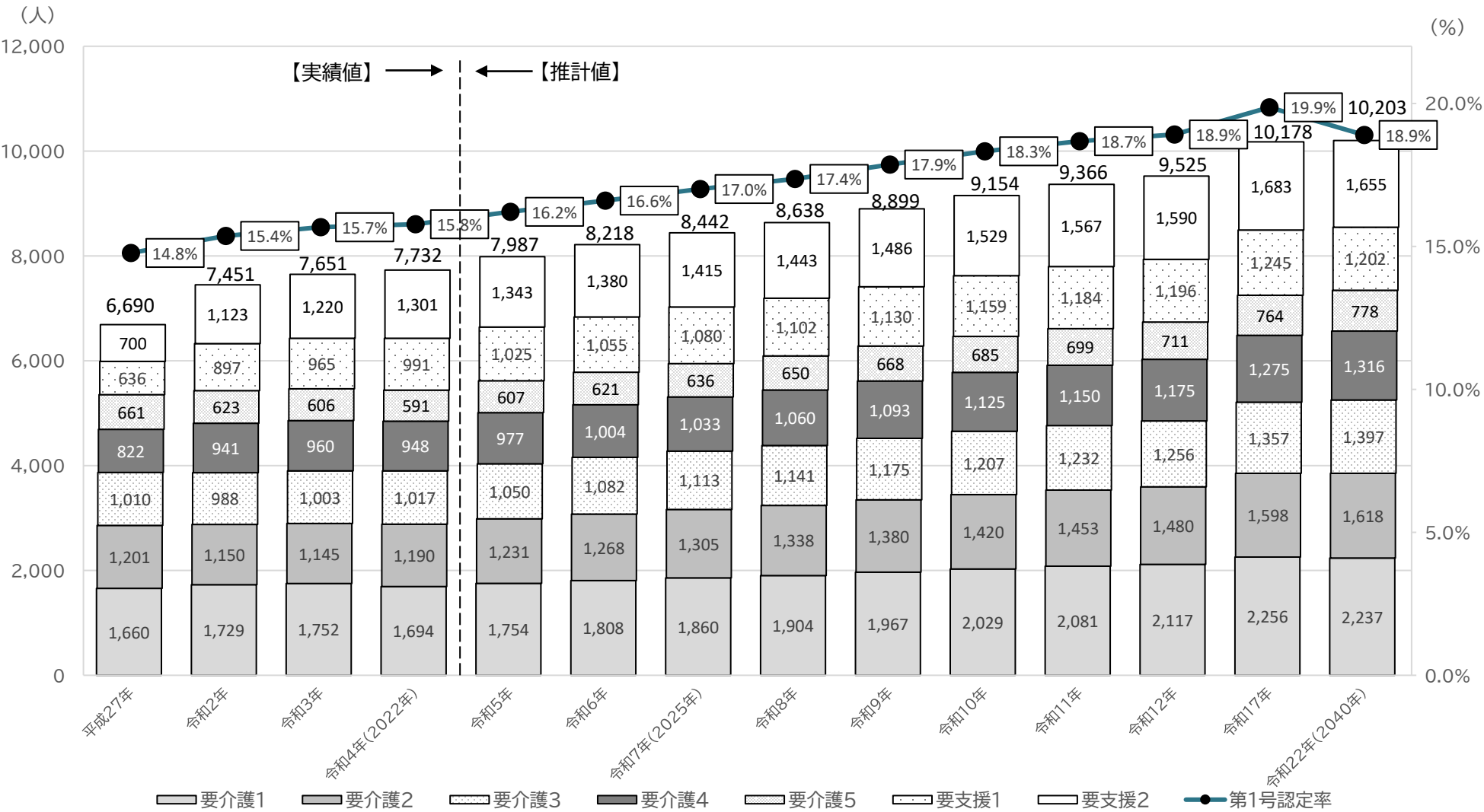
高齢者世帯の推移は、令和5年以降は高齢者単独世帯が増加する見込みとなっており、令和22年には11.5%となる見込みです。高齢者夫婦のみの世帯は、令和6年・令和7年をピークにゆるやかに減少しますが、令和22年には11.0%となっています。



豊川市の現状と将来人口・高齢者数等の予測

(4)認定者数の推移と推計

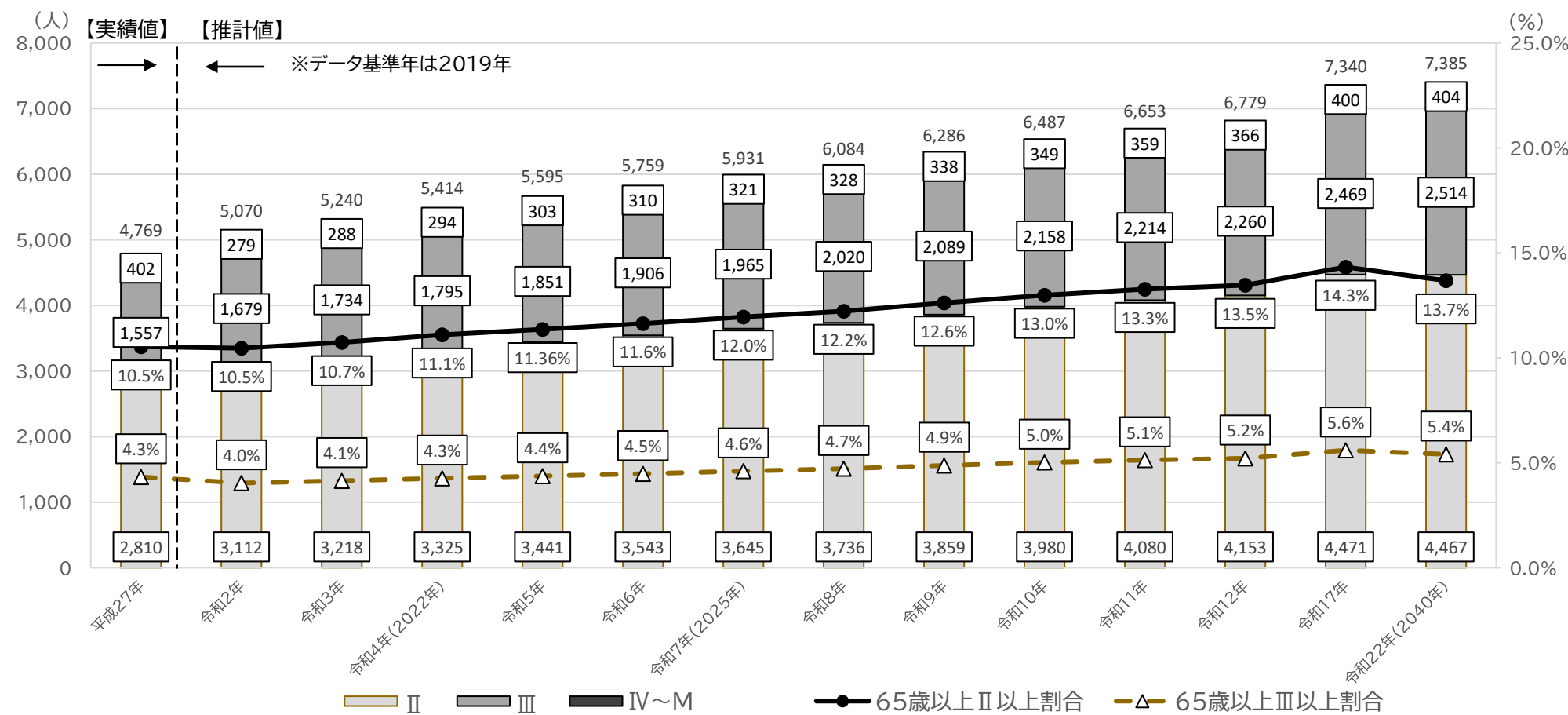
要介護・要支援認定者数は、令和4年まで上昇傾向にあり、令和5年以降の推計値においても増加し続ける見込みとなっています。



豊川市の現状と将来人口・高齢者数等の予測

(5)認知症高齢者数の推移と推計

要介護等認定者における認知症自立度Ⅱ以上の認知症高齢者数は、今後増加する見込みとなっており、令和17年をピークに以降はゆるやかに減少していく見込みです。



認知症自立度
Ⅰ 何らかの認知症を有するが、日常生活は家庭内及び社会的にほぼ自立している。
Ⅱ 日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが多少見られても、誰かが注意していれば自立できる。
Ⅲ 日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さがときどき見られ、介護を必要とする。
Ⅳ 日常生活に支障を来すような症状・行動や意志疎通の困難さが頻繁に見られ、常に介護を必要とする。
Ⅴ 著しい精神症状や問題行動あるいは重篤な身体疾患が見られ、専門医療を必要とする。